

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・米国の次期大統領選の結果を受けて、円安が進むとともに株価が上がってきたことで、客のムードが非常に良くなってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・11月も前年割れではあるが、10月と比べると販売量が幾分上向いている。営業日数が1日少ないことを踏まえるとやや動きが良くなってきている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新型車発表の効果もあり、来客数が前年よりも増えている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・年金の支給月でもないのに販売量が持ち直している。また、珍しく天候の影響もみられなかった。推奨品がよく売れていることも特記すべき点である。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・プロ野球のクライマックスシリーズと日本シリーズの効果で想定外の高稼働がみられた。フィギュアスケートの国際大会、市内で開催されたコンサートなどもプラスに作用した。
		タクシー運転手	販売量の動き	・天候の影響もあるが、前年を大きく上回る販売量を維持している。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・自社製品を値上げしたにもかかわらず、札幌圏の都市部を始めとして法人部門を中心に引き合いが多くみられた。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・11月24日現在の利用乗降客数が前年比約120%となっており、過去4か月連続で前年を上回っている。ただ、免税店の売上をみると、外国人観光客の消費が減少しており、全体としてはやや良くなっているという感覚である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・12月に向けて客の動きがやや早めに生じてきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は前月と変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・周辺住民による来街は例年とほとんど変わらないが、自家用車やバスを利用して中心市街地に訪れる客が減少している。当商店街エリアの月極めを除いた駐車場の一部では、日中の利用の少ない時間帯に3～4割程度の入庫しか確認できず、8月下旬よりも悪い状態にある。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・プロ野球の日本シリーズ期間中は客が家庭でテレビに熱中したため、飲食店を中心に大きな減少がみられた。一方、観光面では国内からの社員旅行が前年よりもやや多くみられたことから、景気回復の前兆がうかがえる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・この季節は、雨やみぞれ、雪などが降ることもあり、観光客の最も少ない時期だが、近隣市で人気アイドルのコンサートが3日間開催されたことに助けられた。ただ、国内観光客の行動や話から、景気が良くなっているという実感はない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・今年は9月がとて暑かったが、10月に入り急に寒くなるなど、秋がなく、突然冬が訪れたような気候であったため、客も冬の準備に追われており、当店の主力商材であるアルコール類にまでなかなか手が回らない状況となっている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・売場、催事場ともに堅調な動きをみせ始めている。数十年ぶりの早い冬の訪れで定価品の冬物商材の動きも良い。また、野球やサッカーなどの地元球団の好成績が地域全体の活性化につながっている。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・客単価は若干上向きの兆しがあるものの、来客数が依然としてマイナス基調のままである。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数は依然として前年並みで推移している。外国人観光客の数は増えているが、道内や道外からの客は減少傾向にある。
	百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・食品については来客数、売上が回復基調となっているが、そのほかの 카테고리、特に衣料品については来客数が低迷している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・10～11月にかけて地元球団の優勝セールと例年より早い降雪の影響で来客数の増加につながったが、一時的な動きとみられる。依然として農水産物の価格高騰が続いているため、客は必要な商材しか購買していない。	

	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が一向に回復してこない。
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・今年の秋は台風の影響で水産物や農作物、交通機関、観光などに多大な被害が生じ、大変な状況であったが、ようやく回復し始めている。一般消費者の購買単価もアップしている。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・防寒物の売れる時期になったことで巻き返しが図れるとみていたが、客の反応が薄く、厳しい状況にある。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・11月後半の気温低下により、暖房機全般の動きが良かった。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・受注量に大きな変化がみられない。新型車の効果も思ったほど受注につながっていない。この後も新型車の発売が控えているため、客の消費マインドが上向くことを期待している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が発売されたものの、前年と比べると客の出足が悪い。
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年並みであり、販売量、売上共に前年比100%となっているなど、状況はこれまでと変わらない。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定しており、変化がみられない。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光客の予約団体人数は前年比194%と好調である。事前準備ができ、客単価も高いため、経営面での効率も良い。一方、フリー客は前年比90%と苦戦している。全体の来客数は前年比120%であった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・例年、売上の下がる時期であるが、今年は秋の宣伝が功を奏し、売上が前年を超えるなど、意外と悪くなかった。また、降雪の早さから、冬物商戦が例年よりも早いスタートとなったためか、人出も多かった。ただ、野菜の価格が高騰しており、レタス1玉が1,200円となるなど、料理1人分の材料費を計算するのがばからしくなるほどであった。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・今年はそもそも客の動きが鈍かったところに台風被害があったことから、3か月が経過した現在もその余波が続いており、客の来店状況が悪い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・当地では11月初旬に雪が多く降ったため、タクシー利用が多かった。タクシー1台当たりの売上も前年と比べて10%程度の増収になった。乗務員不足によりタクシーの稼働率が落ちているものの、会社の売上も前年と比べて4%程度の増収となった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関係や法人による売上は前年並みであった。一方、観光関連は国内旅行客の利用が減少しているものの、外国人観光客の利用が好調であった。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・当初、来春に消費税増税が予定されていたことで、増税を見越して予定していた分の消費活動が進んでいるが、消費税増税が再延期になったことにあわせて、プラスで何かを追加しようというアクションまではみられない。消費の堅実基調は変わらない。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・新商材の発売などで一時的に販売量や来客数が伸びたりもしたが、やはり一時的な影響であり、現状は元の状態に戻ってしまった。
	パチンコ店（役員）	来客数の動き	・地元球団の優勝などの明るいニュースはあるが、広島ほどの経済効果はみられない。
	美容室（経営者）	競争相手の様子	・ここ数か月、売上、来客数とも同じような状況で推移している。気がかりな点は、最近、新聞チラシやポスティングにおいて同業店の値引きが多くなってきていることである。
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・このところ経済情勢が落ち着いているためか、モデルルーム来場客の分譲マンションの購入姿勢に大きな変化はみられない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年にない早い降雪のためなのか来客数が減っている。特に悪天候の日は激減するなど、今までにない傾向がみられている。
	商店街（代表者）	それ以外	・野菜や水産物の価格高騰の影響が出ている。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・来客数に加えて、買上客数も減っている。

	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が減少傾向にある。食品部門は売上を維持しているが、衣料部門、住宅余暇部門は減少傾向にある。	
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・当地は農業が主たる産業であるが、夏から秋にかけての台風被害により、被害を受けていない農家まで消費意欲が減退している。お金を少しでも使わないようにという雰囲気強く感じられる。	
	スーパー（役員）	来客数の動き	・当地域では10月29日が根雪の初日となるなど、今までにない大雪で道路状況がとても悪く、客の行動パターンが例年と違ってきている。また、生鮮食品、特に青果や鮮魚の相場高に伴い商品単価が上昇しており、客単価もここ数か月と比べると4%強上昇している。こうした状況の下、来客数は前年から2%強減少している。	
	スーパー（役員）	販売量の動き	・野菜の価格高騰が続いていることで、客が肉や魚など、ほかの商材の消費を節約する傾向がみられる。	
	コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・11月は売上が前年比94%、買上客数が前年比92%、客単価が前年比102%であった。記録的な寒さが続き、例年よりも早くインフルエンザや風邪が流行していることから外出を控える人が多く、来客数の減少要因の1つとなっている。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・北海道ではタイヤ交換の時期が終わると、来客数の減少が顕著に表れるため、秋に比べて景気が悪くなっている。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・8月からの連続台風の影響により観光需要の停滞が継続している。道内航空路線のビジネス需要は鉄道復旧後も高い伸びを示しているなど、陸路からのシフトがうかがえるが、観光需要の減少を補完しきれていない。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・レジャーの意味合いを持った旅行の問い合わせ件数が減っている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・季節的に仕方がないが、例年11月は景気が低迷する。	
	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、いずれの月も前年を下回っている。特に11月は天候の影響により、前月と比べても大きく下回っている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・天候の悪化を受けてフェリーの欠航回数が増加しており、輸送量が減少している。	
	×	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・主要産業の漁業の景況が悪いことが影響している。沿岸部の店舗では、漁業者の収入が少ないために買い控えの動きがみられ、売上の低迷が継続している。
	×	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・台風の風評被害と道内客の出控えにより、国内客が減少している。さらに外国人観光客も一時の勢いが失われ、減少傾向が続いている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・台風による被害の影響で観光客が激減している。また、基盤産業である農産物のダメージにより、全体的に沈滞ムードが漂っている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・11月の売上は3か月前と比較して約10%のダウンとなっている。当業界は夏場と比べて冬の売上が減少するため、この先の経過について注視する必要があるが、前年ほどの極端な落ち込みにはならないとみられる。
企業動向関連	-	-	-	
(北海道)	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事とも工事受注量は好調に推移している。民間建築工事は新たな商材の引き合いもあるなど、引き続き投資意欲の高さが認められる。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・IoT分野への積極的な投資に関する動きが複数件出てきており、マインド面でも景況感の上向き傾向が感じられる。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は底堅く推移している。また、低金利を背景に貸家建築が引き続き好調に推移している。一連の台風被害の悪影響は残るものの、大型経済対策や災害復旧工事の執行によって、道内景気は緩やかながらも改善している。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・災害復旧関連の工事需要がおう盛なため、景気はやや良くなっている。	

	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・台風被害の復旧工事により多忙な顧客が多い。ただ、人手不足が依然として解消されないなど、課題もみられる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・11月は3か月前と比べて一般消耗資材の売上が約10%アップしたほか、機械設備の販売もあったため、全体的な売上は約30%の増加となった。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べても売上の増減はみられない。
	建設業（従業員）	競争相手の様子	・上期受注の建築工事が佳境にさしかかり、資材、労務とも順調に推移している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・11月中旬までは根雪前の現場向け建材類輸送と農産物輸送が集中したことで、トラック不足になるほどの輸送量があったが、それ以降は落ち着きを取り戻し、結果的に例年と変わらない輸送量となった。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・現時点では、夏の台風被害の影響が予想したほど大きく表れていない。農作物や関連商材、加工品において前年の在庫が多く、今も引き続き流通しているためである。ただ、今後、新物に切り替わるタイミングで倉庫保管量、輸送量が大幅に減ることが見込まれる。
	司法書士	取引先の様子	・8～9月にかけて一時的に上向き傾向であったが、その後は低水準で推移している。
	司法書士	取引先の様子	・不動産の成約件数が伸びてこないなど、景気回復の実感はない。実際に給与などの増額もなく、天候不順による食品の価格上昇がみられるなかで、土地購入や建物新築などの取引は減少したままである。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年比110%程度で推移する状況が続いている。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・8月の販売量は前年比プラス13%であったが、11月は前年比プラス6%となっており、3か月前と比べると増加幅が縮小している。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・首都圏の大手百貨店での売行きが低迷している。地元では台風上陸などの天候不順による影響がみられる。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年末に近づき、販売スタッフの需要が高まっている。顧客からは前年のほぼ2割増しのオーダーがあるなど、企業の拡大意欲がうかがえる。また、一般の派遣、中途採用のニーズも堅調に推移しており、横ばいの業績から脱却しようという意欲が感じられる。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・建設、運輸、介護、飲食などの業界では採用状況の厳しさから、求人の多い状況が続いている。特に運輸業界ではインターネット販売の需要の高まりで採用ニーズが高まっている。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・冷夏、台風、早霜、凍結などによる基幹産業のダメージが現在もまだ尾を引いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が6年8か月連続で前年を上回るなかで、新規求人数、月間有効求人数がともに2か月ぶりに減少した。特に新規求人数は前年から6.6%の減少となった。ただ、前々年と比較すると、新規求人数は1.5%の増加となっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数は前年を3.0%下回り、3か月連続で減少した。有効求人倍率は前年を0.04ポイント下回り、2か月連続で前年を下回ったが、引き続き1倍を超えており、雇用情勢は改善している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・百貨店の閉店に伴い、月間有効求職者数が増加しているものの、月間有効求人数が増加していることから、求人倍率は1倍以上の水準を維持している。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・北海道新幹線の開業後も冬場の観光は依然として弱い状態にある。また、小売業も売上が伸びていない状態にある。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比較して求人広告の申込件数が減少している。

	x	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集広告の売上が前年比マイナス15%と激減した。売上の上位構成業種についてみると、派遣、医療、運輸関係が2～3割の減少となったほか、飲食、加工製造は半減した。農業は天候不順や台風被害の影響が大きく、飲食店は農協などの農業関係者の自粛ムードにより例年の8割程度の売上にとどまっている。
--	---	----------------------	--------	---